1－5 身近な人々の職業（2）

進路情報

1. 題材設定の理由

生徒は家族の職業や仕事についてあまり知らないことが多い。実際に職場を見る機会が少ないことや、家庭での会話の時間が短くなってきていることなどが原因である。また、多くの生徒が将来の夢や希望をもっているが、まだ就きたい職業の具体的な内容を理解している生徒は少ない。これからいろいろな職業について理解させることや、働く意義や目的を考えさせることにより、正しい職業観を育てていきたい。

そこで本時では、職業の対象を身のまわりの人（近所の人・家族及び親類縁者などの身近な人を指す）までにし、その職業に関して、具体的に調査活動を行い、知識や見方・考え方を深めさせたい。

2. 指導のねらい

身近な人々（家族など）の職業を通して、仕事の内容や苦労、喜びに触れさせることで、職業に対する関心や見方・考え方を深めることができる。

3. 指導計画（全２時間）（夏休み等調べる時間をはさむ）

本 時	・職業を見ていく時の視点を確認し、調べたい職業を決定することができる。
事 後	・調査活動。直接面接法による調査活動を行いたいが、難しい場合は、本などの参考資料による調査活動でもよい。調査したことは発表用にまとめる。
	・調査した職業について発表する。時間にゆとりがない場合は、帰りの会等の時間を用いて随時発表する。

＜説話例＞

「見かけではわからない職業……」

働くということは、わたしたちが見ている以上に大変なものです。みなさんがよく知っている職業の中に、銀行員というものがあります。銀行員という職業はうわべだけを見ていると、夏は涼しく、冬は暖かく環境に恵まれた仕事だなあと思うかもしれません。先生も子供の頃はそう思っていました。しかし、ある時、家庭訪問をした生徒のお父さんから仕事の大変さを聞かされ驚きました。「まず、入社した頃は外回りといって会社や家を訪問して集金などをする。だから、暑さや寒さは身をもって感じる。また、銀行内での資格試験がたくさんあって、それに合格しないと立場が上がっていかない。もちろんお客さん相手の仕事だから接客も注意しなければならない。仕事が始まるのは、朝の７時頃から夜の10時頃までと大変長い。」みなさんは銀行員の人たちがこんなに大変だと知らないと思います。このようにわたしたちが職業について知らないことはたくさんあります。みんなで協力して調べてみましょう。

	活動のねらい	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・身近にある職業を交流し、調べたい職業を選ぶことができる。	◎身近にある職業の種類を理解する。 ・身近にある知っている職業を交流する。 歯医者,農業,漁師,縫製業,事務員,機械工作業員,医者,弁護士,飲食店,運転手,教員公務員,写真屋,建設会社,税理士,JR職員等 ◎調べたい、興味のある職業をその理由を述べて交流し合う。 ・弁護士は大変かっこいい職業だけど、どのようにしてなるのか知りたい。	・生徒が知っている職業をどんどん発表させる。 ・いろいろな観点で分類させると、職業を見る観点を与えられる。 ・職業を調べる視点を見つけさせるために、発表させる。	・P.14[1]、[2]
	課題：職業に対するいろいろな見方や考え方をもとに、身近な人々の職業を調べてみよう。			
中心的な活動	・職業を調べる視点を理解して、調べる職業を決めることができる。 ・身近な人々の職業を調べることができる。	◎職業を見ていく時に必要な視点を考え、交流する。 ・その職業に就いたきっかけ・具体的な仕事の内容・生活ぶり・収入・苦労と喜び・必要な資格を取るまでの過程・なり方・勤務の様子 ◎調べたい職業を発表する。 医師　弁護士　ホームヘルパー 教師　調理師　税理士　鉄工所 お菓子屋　保育士　公務員等 ◎調べたい職業を決定する。 ・各生徒が調査を希望する職業名に自分の名前を書く。 ◎調査の手順を確認する。 調査の手順 ①調査対象を決定する。②調査する日程を決める。 ③調べる内容の分担をする。 A君：仕事の内容 B君：必要な資格を取るまでの過程 ④発表形式を確認する。→用紙や模造紙にまとめる。 ⑤取材したことを整理して、記事の構成をし、割り付けをする。 ◎調査活動を終えて分かったことをP.15[4]に記入する。	・調べる視点をはっきりさせ、一人一人の生徒が役割を自覚して、調べ学習ができるようにする。 ・それぞれが興味をもっている職業を発表させる。 ・一人で取材することが大変な生徒は、グループでの調査活動も認める。また、生活班別に職業を決めて取り組む方法もある。 ・個人別にしてもグループ別にしても、調査活動を行う場合の具体的な手順を確認する。 ・調査対象の決定にあたっては、生徒たち自身の手で行わせたい。その候補者は、生徒たちの近親の人や親の縁故者にしたいが、特に候補者がいない場合は、教師が探す。	・P.14[3] ・資料編[1] ・P.15[4]
まとめの活動	・発表形式について確認する。	◎今後の活動の仕方を理解し、活動の見通しをもつことができる。 取材→整理→まとめ→発表	・限られた時間を有効に使うよう指導したい。	
事後	調査活動 ・主体的に調査活動に取り組み、調査した内容をまとめることができる。	－調査手順－ ◎事前に調査対象になっている人（企業）と面接調査の依頼をする。 ◎調査項目に従って面接調査を実施する。 ◎調査した項目を発表できるようにまとめる。 ◎訪問先に礼状を作成し、送付する。	・調査対象への依頼の仕方は、紹介者を明らかにして自らが行う。 ・調査対象が見つからない場合は、参考文献を用いて行わせる。 ・礼状の書き方について指導した後で、書かせる。	・プレゼンテーション ・模造紙でまとめる
	発表会 ・主体的に発表すると同時に、他の職業についても理解を深めることができる。	－発表会－ ◎調査活動を実施した職業ごとに全体の場で発表を行う。 【発表例】　設計事務所の建築士 ①設計事務所で設計図をかく。以前は製図器具を使っていたが、今はコンピュータを使って設計図を作る。仕事の打ち合わせで、海外へ行くこともある。 ②大学で学んだことを生かそうと考え、この職業を選んだ。建築物を見て、自分も設計してみたくなった。 ③自分が設計した建物が実際に完成した時や、仕事先の人から感謝された時、喜びを感じる。 発表後には必ず質問時間を位置付け、職業理解を深める。 ◎この調査活動を通して得たことを各自がまとめる。 ◎発表を聞いて、P.15[5]、[6]に記入する。	・１時間の発表会を設定することが困難な場合は、帰りの会等の時間を用いる。 ・また、この活動の延長として、実際に働いている方をゲストティーチャーとしてお招きして、直接生徒に語ってもらう場を設ける。（**1-6**「働く人たちの考え」と関連させ、設定する。）	P.15[5]、[6]